孫氏家乘

六

2159

繪本寫寶袋六

孫臏法術を修し孫臏伏する圖

孫臏龐涓を幸て雨を祈る圖

孫臏龐涓を馬陵に誘て弩射殺す圖

藺相如秦に使する圖

并下和の和璧を奉る事

秦王趙王會澠池する圖

藺相如秦願の来を見て車伏避る圖

孫武子寫真後六之奏に同録

晏平仲楚國に使して秋を辱しめざる圖

晏子之御者の妻窓より夫を伺ふ圖

呉王闔閭使孫子武女兵を操しる圖

呉王夫差与西施八乗に遊ぶ圖

孔子生留庫實を辯ずる圖

并顔回の仁廉節を改ざる圖

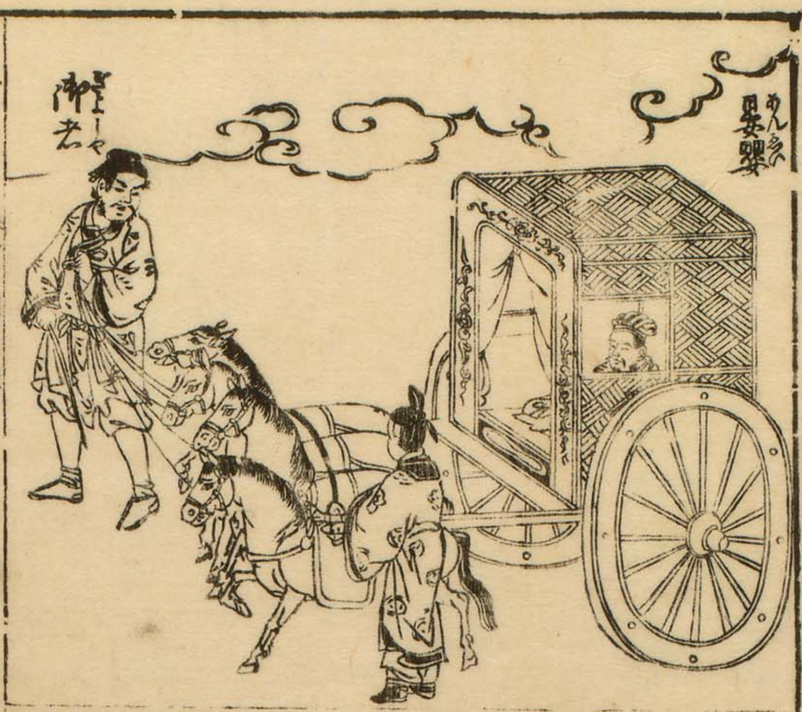
智伯の臣豫讓漆を飲報を思ふ圖

繪本寶袋六之巻

嬰子仲達小丈夫にして秋國と戦う　あらすじ

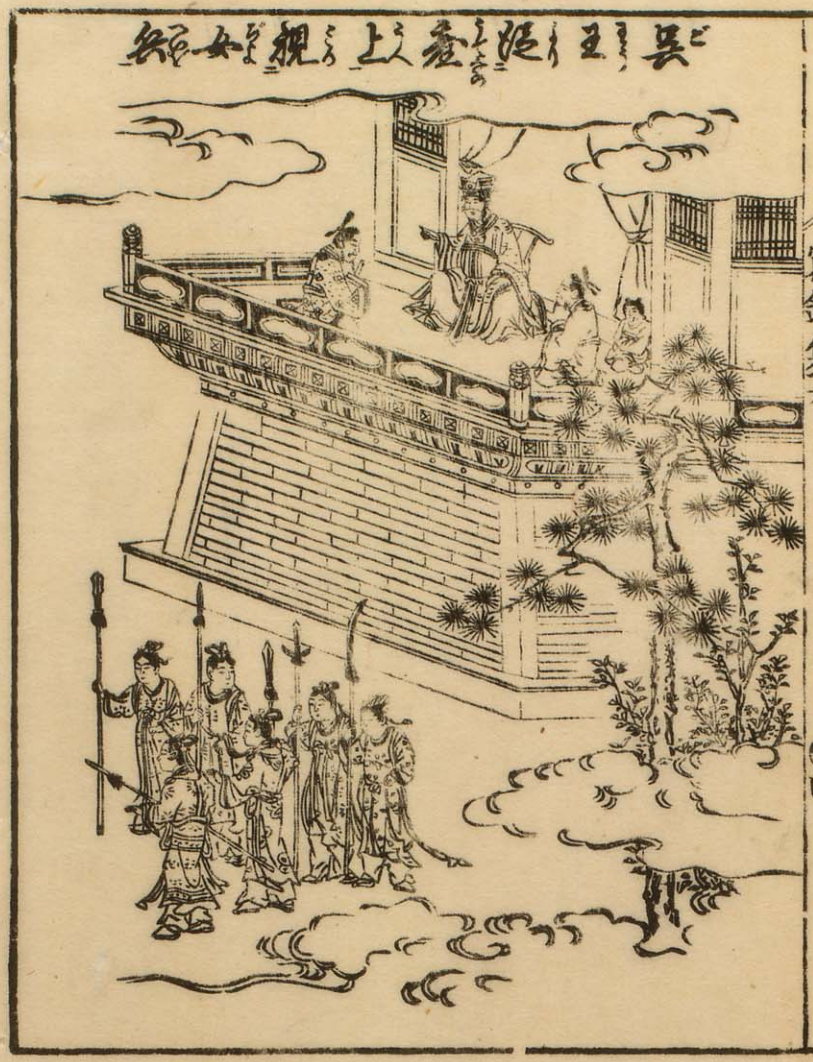
新乃嬰嬰冠賢の幸と射ぜんがために楚王に仕へ小楚
ふるひて玉中に風雅にんるに地雲人傑まことに小国の美
地なり近くくるれば一大門有て橋ゆせり傍に小つゝみり
墓ざ寂く繁し楚國の奏者先達へらくに門に入んん
とし嬰子の我と怪るものと知てこれ嬰子の物語
乃彼紙にて入へしいかれば遂に大門より入るものよ嬰
ふ及で数十人の僧侶係士左右にお別てかうるくあく
命ずるとひとしくを嬰子とくぐり通音ーくれば同じして
遂く楚の二軍左史佐太公に嬰子い秋の賢士にそこれを
怪る中とし雲と仕日の王者と称ふ嬰子皮れに食と立て奈
笑ふ嬰子の曰王者と果と賜へ川橋拝刺とと云ふと楚人
敢て辱しひろこと能ひ遂に聘礼とねめ嬰子と宴ーそなひ

晏平仲一日出行時
其御車を御するものゝ妻あ
り門の間よりうかゞひ覗
これば其夫の御者として蓋
を擁し駟馬に策うち
意気揚々として自ら
得たるの様子なり既に
して家に帰り見れば彼妻
去らんと請ふ御者其
ゆへを問ふ妻の曰く今
晏子は長六尺に満ずして
然れども身は斉国の
相として名諸侯に
顕れたり今日
其志を見るに深く



人ありといへども人の
僕御となり御者は八尺乃
身ながら是をもつて足れりと思
へり妾是をもつて去らんと
乞ふと言ふ其夫これより
御者大いに恥てそれ
より抑損しみづから卑下
あやしみこれを問ふに宣と
ぞ御者ありのまゝに
かゝる晏平仲大夫に
感じ遂に薦めて
大夫となしけり
晏子姓ハ晏名ハ嬰
字ハ平仲斉国の
相國なり

孫武女兵ヲ操ル場
二妃法令背ク孫子武ヲ斬ル所

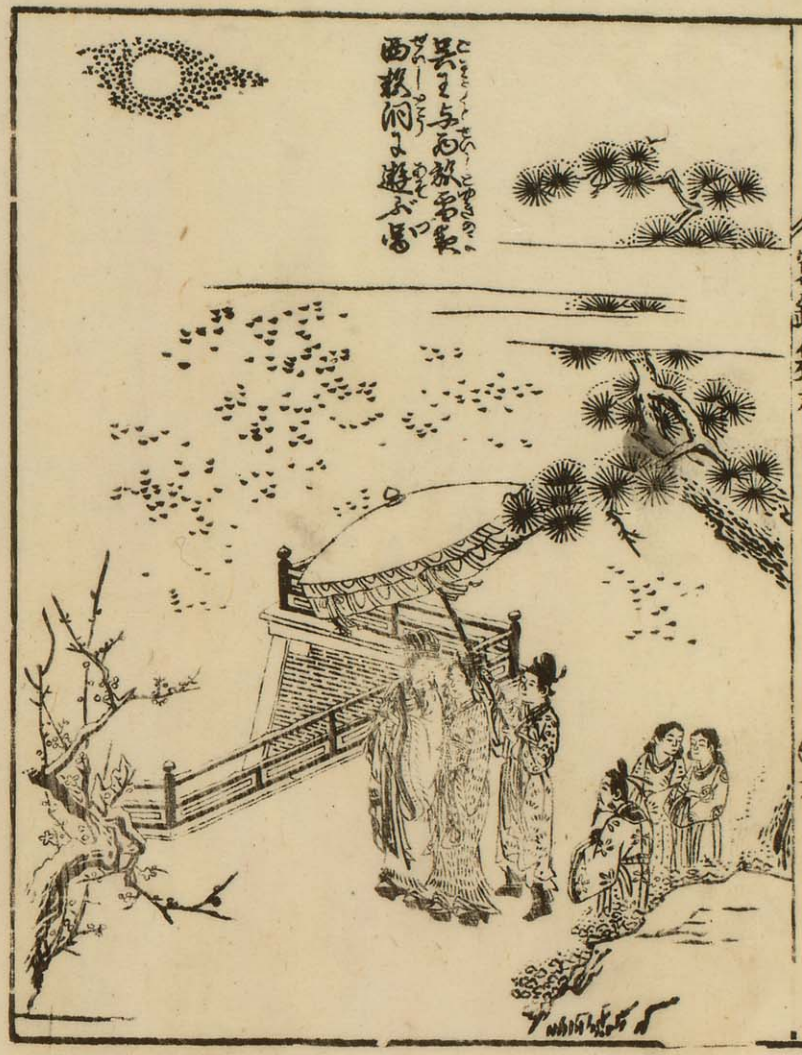

呉王闔廬上ル視女兵

呉王夫差与西施遊八景

呉王夫差与西施遊八景

伯嚭奏之云ふ百里と呉宮の遠さ六千人伍員の諫に
因て楯小書き柱式金にして探牛と云ふ
さ苦と奏し楼孤しく名歌と称ら潮水流て
環し荘子の舟と浮ふたる香水溪あり古小百花洲
四時花の香しかる中絶ど山色三年の紙と横ふ
あつめて紙花りと日くに山色よあてむそ数十丈美
女紅粧の側に列く歌舞しむ時小西施を
貌さくひ〻しまれ紅粧を石妃小清る又書巣山に西施洲
と繁さ孤花池と寒林香径と緑さ孤泉井と鬱彼蛙文
伍蓮西施と挙へ妃嬪として紅渡と掬しめ八景に遊ふ
蓮百花洲香水溪西施洲孤花池
楼香径緑泉井鬱蛙文
亭に逢ふ酒宴と勿し樹と遇毎小歌舞費へ四方に百色

とうづと花乃枝と打西施の繁と掬ふ
下に立ち孤花の貌と子小影して子小貌の色乃
知しと友小数多乃船と蕭鼓と載西施と共に香水溪小遊と
貴し宮女小蓮花採しむ西施を蓮花とちんしして
溪水小溺る文女あり文れに入て投起しまうつ毋に
抱入く曰く西施うあり文小溺るあり文小溺花れに
しと文溪と白珠と布ふあり文く西施と共小遊し林を
西施と共雪巣山と登り石楽花うづと彼蛙文と歌しく
巣歌舞奏伝し冬小霜の紅雪花と歌と西施と共小孤の
巣と共く数十丈宮女紅粧して車と〻しめ楼花と数の浸び
呉王改車と理と書巣酒宴遊楽花ちまうす国政と
荒り仮小青表章と奥して楽ひ王と全く紙ちうて青
出く新して曰呉の東楽付う世のみ安そそ亡びるべん
中し後遂小越王勾踐のうめ小滅されうり


呉王与西施西湖ニ遊ぶ図

孔子薬童と雑たまふ
孔子の仕者奈木

子路
顔回
閔子騫
宰予
子貢

孔子陳蔡之間に困し給ひ

楚の昭王聘礼を以て孔子を招き給ひ

孔子陳蔡の

顔淵
子貢

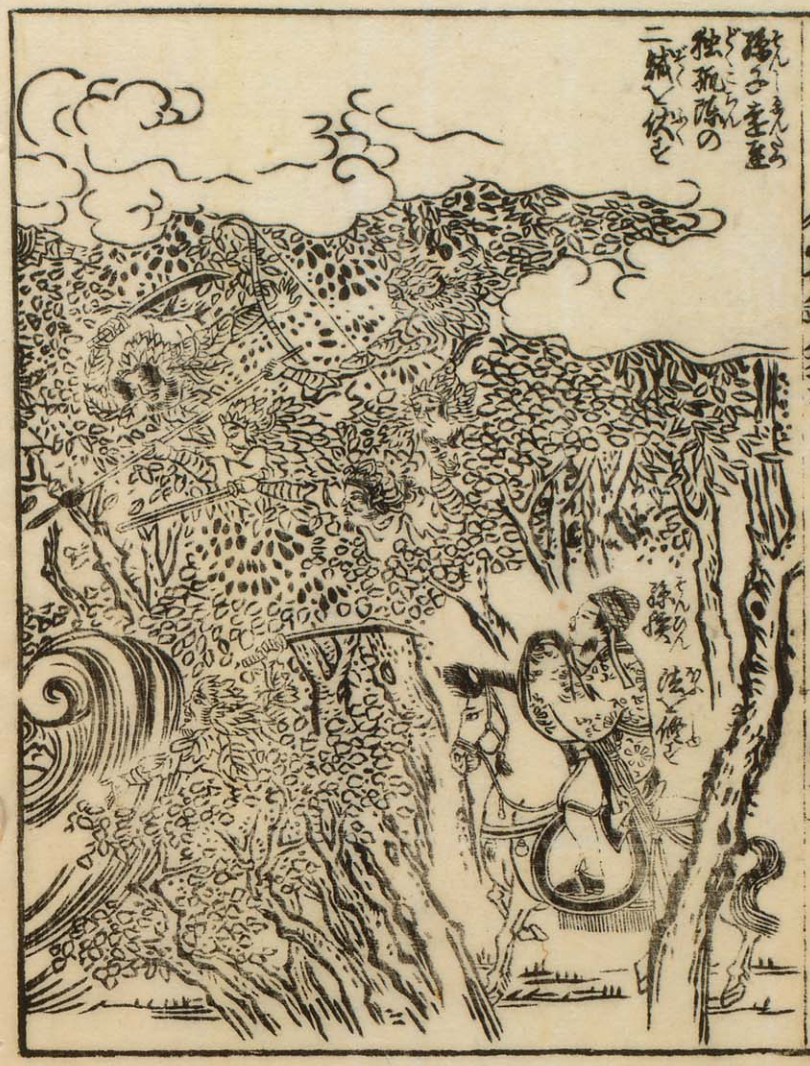
孔子
管子
原憲
宰予
子路

倚儀衣袍と術て主君の
仇と狙ふ

趙亟袍帛の衣袍と
脱ぎ遺棄ふ

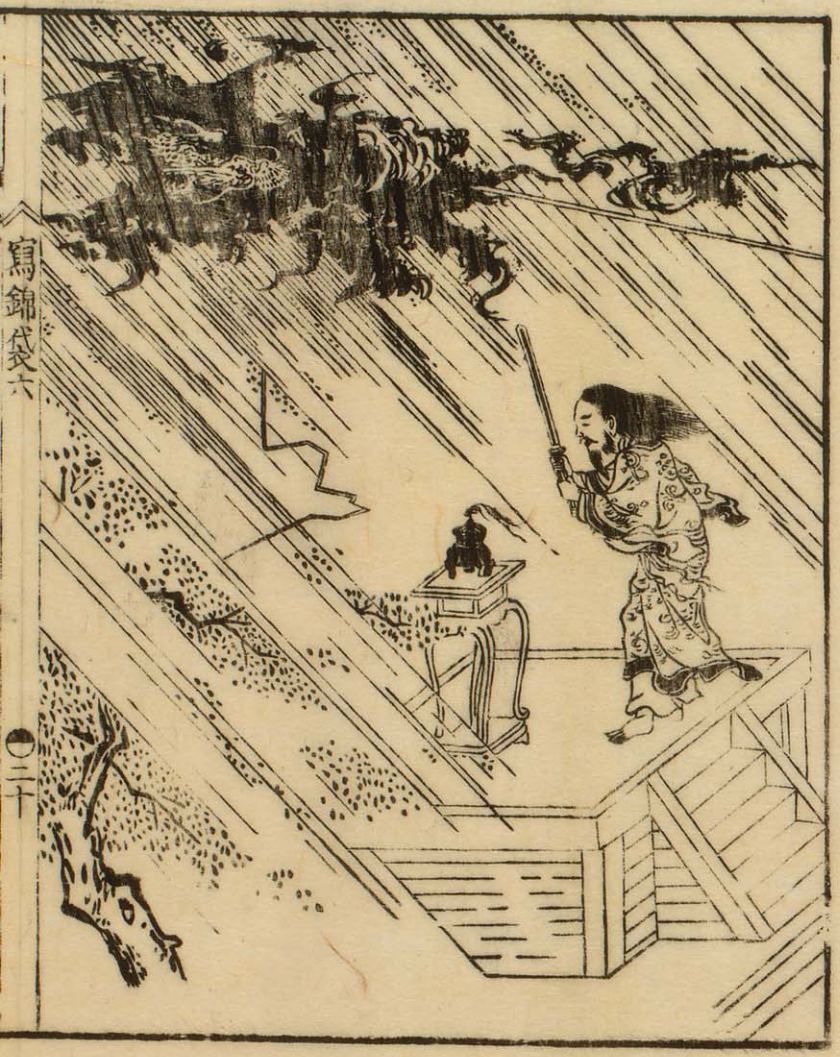
[illegible]姫智恵と殺しそ[illegible]と[illegible]と[illegible]の[illegible]
智恵ゐに[illegible]懐そ仇と報ぜんと[illegible]懐ゐ[illegible]
ゐ[illegible]に入[illegible]て渡と勤るこゝろ[illegible]と[illegible]の[illegible]
近寄て刺んとす[illegible]姫ゐ[illegible]ふ[illegible]と殺さんこと[illegible]姫ゐ白智恵死て
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]の義士ゐ[illegible]
これと[illegible]て[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
と懐ゐ白[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
下に伏し[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
退後と[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ白[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

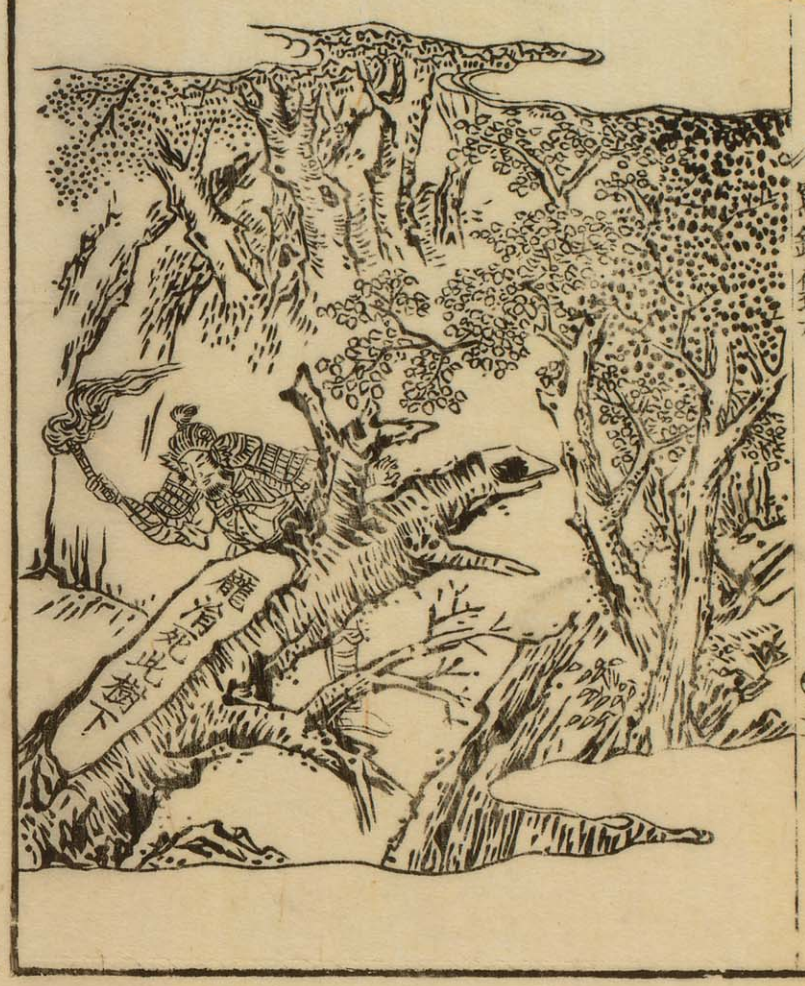

陽子童童
獨孤陸の
二猛と伏さと

せんとぞ云しずまりて一命ゆるしぬと云孫演別法
合ぞれば天時草木えのごとし二城晓て稼し云る孫演又
も来城本ゆんもと奏しこれ孫と布二城柔のごく
来りこれ孫こは入くあるもの紙つぶ孫演又もゆるの法の敵又
城来る孫演蓋て雲霧りして紙演と布二城柔
ふつりて囲れられ足働ことなくつぶ遠は伏姫しなる
孫瞞銭は入く患まに見やまたで中軍ちまふ弟ど龍海
しお弟して覇と奥さんと曷しひひ時生平大は畢して
草木生業く百姓喜く若む孫演く風と降毎と嘆の術城
ゆるりれハ龍海銭まに奏し孫演として面法行らしむ
孫令法ぬて秘術法治し数と数ら賞敏とれて遠は嘆ろう
法と行ふは奥史して雲起り風生し大雨潜くこと遠く海
く百姓大ふ恐ぶ銭も大は感じ孫演と弟ぬて法銭大師
兵奏軍勝事とに龍海こづく孫演はなるさること知

城く孫といいても面目法断てこれと敵く以時秘の使漢
銭来て孫は孫演と車に乗て雷こなる秘の敵を兵法と同
くこれと師とにも張銭軍韓と伏雷故ひと秘ふ法風ふ別
田三法ねと孫演と元帥として雷と撰しむ孫演田三を
孫して車ふ銭の邪大樂と攻銭のね龍海これとまて雷と
去て大樂になる秘の田三ねて戦りんに孫ふ田三法ふ
云百里ふして遠と利ないとれと暇ぐと云つり銭兵こづる
孫田のりそして毎は秘と雷んと今我来弱と入て傷ー
そて来密ふ龍て帥と敗ひ龍海兵と率て秘の孫はうら入
も電と敗のるに十万あり龍海ふ百十万の電密ぞうく空く
推と維んゆて兵と使して兵ふ進ふ的日孫演遠と入十里
して孫と敗まに万の電と居して去る龍海をくこと入て電の
滅どうと入て大は去んて秘軍まれと法ふて士卒亡ないこまま
なりとの歩軍と棄て孫るの兵と率ひ又進と一日孫はもに行



麗將軍
魏大將麗淯

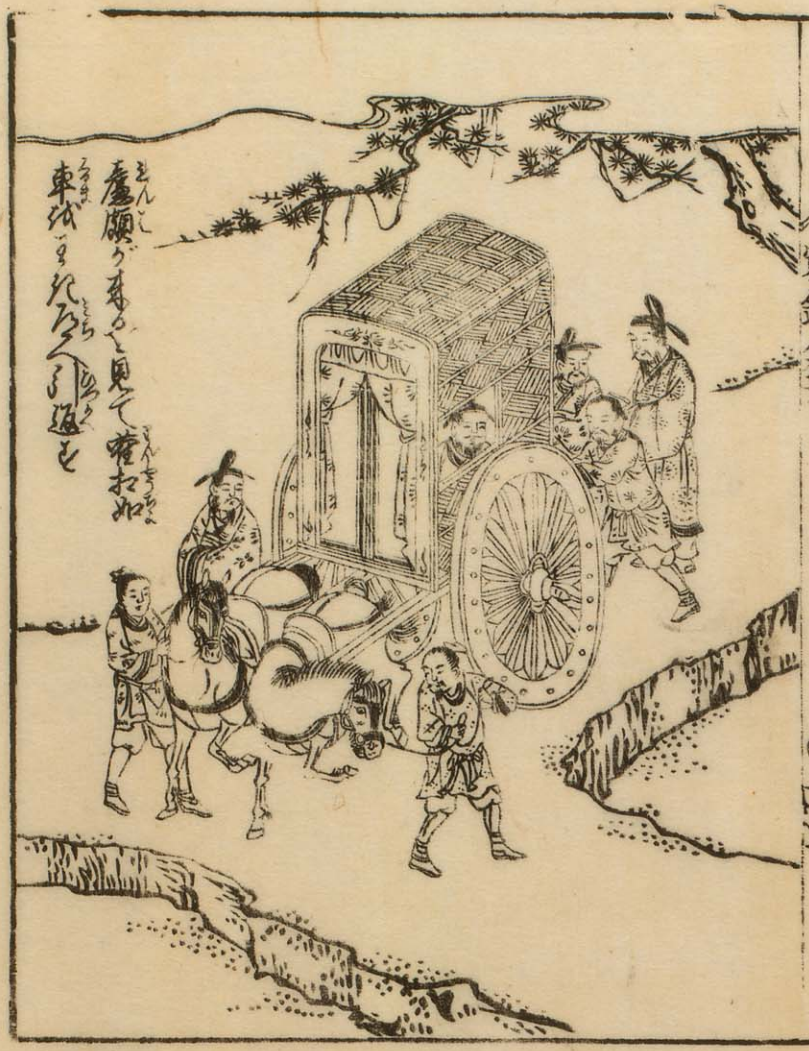


猛く渡り書かる陵より西の下に山あり狹隘にして樹木叢蔚
り別道僅に通ずと雖ども方彎曲して伏兵を入れ難し
作戰して塞ぎ木を折り白して龐涓は樹下に死せんと
書して伏弩に下令して曰く日暮れて樹下に火の光を見
一同に弩を發すべしと又二方の竈を作て迫く龐涓遠く追
て陵の後方の口に到る時天日已に暮れ秋軍は竈火を滅
ぎると見て收び集む法令曰く陵の後の險迫なりて進
ぎるべし迫くして伏あらんと思ひて追ふに龐涓遂に
曰今我追て孫臏と雖ども勇にして孫臏と雖ども見あらはすこと
遠くして孫臏と雖ども追ふ
軍回来て第一大木を塞て通路を絶つ一行の文字を書
して曰く龐涓此樹の下に死すと云龐涓樹を見て
き我則ち文を燧に中て之を遂に軍を回らすに及ぶ軍
ざるに秋の軍方弩を俱に發し萬の下令を聞き秋軍大ふ

乱を始る龐涓痛手負て智窮り勢ひ盡きて自刎せりと
云て遂に死を秋軍捕へて奇貴と為て
軍の名を中と虜すべし
世を兵法に孫臏を惠貴と為て冠軍と稱して高名
蘭相如之智勇并に和氏の璧
趙の惠文王の時に藺相如と云人あり趙の惠文王に和氏の
璧と云ふ名玉を秦の昭王伝て趙の惠文王に書を
送り和氏の十五城の璧と云て易ふるんと云
趙王群臣と議して曰く与へんと欲すれば秦兵我を攻撃
すべし与へんと欲すれば秦に使を遣て必ず璧を秦に留め
ずの曰く璧を捨て秦に使を遣て必ず璧を秦に留め
て趙に入らざるの策と為るべし如何と金を以て趙王の
と為に相て如何して秦に使しむべきと
如て昭王に見へ寡君秦趙の好を絶んと世を

翼圖解云瑟長八尺一寸廣一尺八寸面底皆用梓木絃八古制五十絃今用廿五絃
趙王
藺相如
御史

缶
字書註云盆也土制缶ナリ
藺相如秦王ニ之ヲ擊ツレイ
秦王
御史


虎頭ゞ者ゞと見て驚おめ
東武へ

[illegible]と秦の王政と称して[illegible]天下を[illegible]し[illegible]なり[illegible]て[illegible]
[illegible]と云ひ[illegible]藺相如迎付[illegible]く秦王に[illegible]曰く
[illegible]も[illegible]相如[illegible]王に大王[illegible]秦王[illegible]藺
相如[illegible]を[illegible]の[illegible]を敵の[illegible]を[illegible]
[illegible]冠[illegible]秦王[illegible]
[illegible]秦王[illegible]
[illegible]城[illegible]
[illegible]
[illegible]

として下和が石の璞と刖る。武王
殺されて武王立て又璞の玉と刖る。武王
が石の璞と刖る。下和無罪の璞と知る
なく良士なく刖りとて璞を抱て荊山の下に
哭る。三年後文王聞て奉ぐ。文王玉工に磨
しむる所果して光明を出す。時和氏璧と
名付く。楚の和氏の璧と云ふ。趙の惠文王伝候と云て
時秦王より璧を乞ふ。後秦天下を一統して帝位に
即く。始皇帝と云ふ。始皇帝と云ふ。始皇帝と云ふ。
秦王又趙王と云ふ。始皇帝と云ふ。
と云へ。澠池に会して秦王と云と秦王酒数巡に及て
寡人趙王に言楽と始めて云ふ今日和氏璧と
して楽と奏し給へ。趙王辞とて云ふ璧と
秦の御史筆とれり。秦の年月日秦王澠池の上に趙王に

璧と云ふ。秦王趙王と擬し給ふ。藺相如こゝに出て曰
趙王もて璧と云ふ。秦王もて鉞と撃て秦の
鉞ひく。秦王怒て藺相如を澠池の
の前に引て行て鉞と撃ぬ。藺相如こゝに立て鉞と
の頭の血と云ふ。大王に鉞と撃ぬ。秦王已事と
撃て鉞と藺相如の御史に書て某年月日趙王澠池
の上に秦王鉞と撃て鉞ひくしむと書記さしむ。秦王に
趙王に陽事なく酒宴乗ぐ趙王国に帰り秦王の使
こゝに出て秦王と設て招待と云て。秦さて兵と動と
事なし。そもそも藺相如が功の大なると知て上卿とし
て廉頗が上に置し。廉頗が上に置し。我趙の大将として
城と攻野に戦ひ勝て大功あり。藺相如は口舌と
云て我上に置し。藺相如は素賤の家人なり
吾是を下て恥らん事此上の屈。永藺相如が為に

厚うしめんと雀和如さく嚴てしかゝ云ゝ虞頗弼こゝろ
毎よ雀和如八病と称じて虞既と列てわゝそつず一日雀
和如出ふ虞既ゞ来ふとんく車火引さく巡医ゝ雀和
如ゞ家人号徐ゝくいゝく泊留云ゝ事ゝこゝ云ゝゞ義と
慕ゞ四へなう。今虞頗弼云ゝとうすゝ云巡医ゝこゝ
事れ事ゝれハ何ぞや。雀和如ゞいゝくゝれ秦ゝ云ゝ
ゝ云ゝと厚うしめうう。何ぞ今虞和軍と長ゝんや。弼ゝ
張秦の兵ゝと戦ふくつへゝさらハ虞既と我ゝとゝゝくなり。今ゝ
人冠ひ幸ひてゝゝ勢ひとのふ死ゝん我ゝくゝゝくゝゝゝ
の兵ゝとゝんゝゝゝ私のわゝゝと後ふゝとゝなりと虞既ゝゝ
ゝて大ゝ慚雀和如ゞ門ふ到り自らゞへゝわゝ敬とゝ
て庇と謝ゝ遂ゝよわゝゝゝ